

市長コラム

～小さな心がけから始めよう～

Vol.39



5月1日、110年ぶりとなる新入幕での幕内優勝を成し遂げた尊富士関が当市に凱旋し、市では、尊富士関の栄誉をたたえるため、第1号となる市民栄誉賞を授与したほか、地元である金木地域、五所川原地域でパレードを実施しました(3ページ掲載)。

当日は、尊富士関の歴史的快挙を祝福するような好天に恵まれ、尊富士関、伊勢ヶ濱親方のほか、セレモニーでは宮下青森県知事にも来賓としてご参加いただき、大いに盛り上がった一日となりました。

5月場所は休場とのことですが、故郷の誇りである尊富士関には、まずは怪我をしっかりと治し、三役、そして更に上位の番付へと飛躍されますことを心より期待しています。

★家庭でできるごみの減量化

市では、6月の環境月間に合わせて6月1日から30日までを「家庭ごみリサイクル推進月間」としています。

ごみを減らすためには、「食材は使いきる」「料理は食べきる」「生ごみは水気をきる」の『3つのきる』と、「くり返し使うこと Reuse(リユース)」「ごみの発生を減らすこと Reduce(リデュース)」「資源として再生利用すること Recycle(リサイクル)」の『3R行動』の実施が身近なものとして挙げられます。環境保護という難しく感じるかもしれませんが、『3つのきる』と『3R行動』は、家庭でもすぐに始められる取組です(4・5ページ掲載)。

その中でも、私が実践し、特に効果を実感している生ごみの水気をきる取組について、ご紹介したいと思います。

入れ終えたお茶の葉、コーヒーの抽出かす、食べ終えたバナナ等の果物の皮など、水気を多く含んだごみをスーパーなどで買った食品トレーの上に置いて、窓際の日当たりの良い場所で乾燥させます。乾燥させたあとに、実際に重さを量ったところ、お茶の葉は88.6gから30.9gと半分以下に、果物の皮は197.0gから102.0gまでに減少しており、驚くべき結果となりました。

仮定の話となりますが、家庭で1日100g水気をきっ

たとすると、1カ月で3kg、これを当市の25,500世帯のうち5,000世帯が行ったとすると、市全体として1カ月で15,000kg(15t)の減量になります。

西部クリーンセンターに搬入されるごみの全体量のうち、49.6%(令和4年度実績)は生ごみなどによる水分で、水分が少なくなることで、焼却のための時間が短縮され、二酸化炭素排出と経費(1t当たり約17,500円、単純計算で年間約3,150,000円)を削減することができます。

私たちが暮らしや地球を守りながら、いろいろな問題を解決し、豊かで幸せな未来をつくる、いわゆる「SDGs」に資する取組であることはもちろん、金額的な削減も見込めます。

また、私はしっかりと乾燥させたコーヒーの抽出かすを自宅の庭にまいています(乾燥させたコーヒーの抽出かすには虫よけの効果があるといわれています)。

水気をきる取組については、実際に重さを量ってみると減量の効果を実感でき、遊び感覚で楽しみながらできますので、ぜひ皆さんもチャレンジして欲しいと思います。ごみの減量化に関し、ほかの人にも実践して欲しいというアイデアがあれば、ぜひ環境対策課までお寄せください。

★広げよう「ごみ拾いの輪」

もうひとつ実践しているごみに関する取組をご紹介します。私は近隣の公園をよく利用しますが、その際、公園内に落ちているごみがあれば拾うよう心がけており、特にプラスチック類のかけらは、小さな子どもが転んだときに思わぬ大きな怪我の原因となる可能性もあり、注意するようにしています。

利用者が例え1個であっても気付いたごみを拾うようになれば、効果は大きなものとなります。また、ごみ拾いは、公園に限った話ではなく、いろいろな場所でも実践できます。些細なことかもしれませんが、一人ひとりが地域に対する思いをもって、きれいに気持ちよく使うことを心がければ、ごみを捨てにくい風土につながるものと思っています。こういった取組の積み重ねが市民協働社会につながりますので、皆さんのご協力をよろしくお願い致します。



凱旋パレード出発セレモニーの様子



果物の皮を乾燥させる前と後の重さの比較